



# TimeCardView ソフトウェアの使用方法

このマニュアルでは、TimeCardView の設定モード コマンド、および TimeCardView に関連する Cisco Unity Express のコマンドについて説明します。

この章では、TimeCardView ソフトウェアを理解し、コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して設定する際に役立つヒントを示します。この章は、次の項で構成されています。

- [コマンド モードについて \(P.1\)](#)
- [コマンド環境の開始 \(P.2\)](#)
- [ヘルプの利用方法 \(P.3\)](#)
- [コマンドの no 形式と default 形式の使用方法 \(P.4\)](#)
- [設定変更の保存 \(P.4\)](#)
- [サポートされるプラットフォームの確認 \(P.5\)](#)

## コマンド モードについて

TimeCardView CLI コマンドの構造は、Cisco IOS CLI コマンドの構造に似ています。ただし、TimeCardView CLI コマンドは Cisco IOS の設定に影響を及ぼしません。

TimeCardView は Cisco Unity Express のアドオン パッケージとして使用でき、この 2 つはサービス モジュール上で共存するため、TimeCardView にアクセスするには Cisco Unity Express モジュールにログインします。Cisco Unity Express モジュールにログインすると、コマンド環境は Cisco IOS 環境ではなくなります。

Cisco Unity Express コマンド環境には次の 2 つのモードがあります。

- **Cisco Unity Express EXEC** : Cisco Unity Express コマンド環境にログインした後のモードです。Cisco Unity Express EXEC コマンドは、さまざまな点でシステム パラメータに影響を及ぼします。パラメータ値の表示またはクリア、システム全体の停止または開始、トラブルシューティング手順の開始だけを行うコマンドもあります。ただし、Cisco IOS EXEC モードとは違って、Cisco Unity Express EXEC モードには、パラメータ値を変更するコマンドがいくつかあります。これらの変更は、スタートアップ コンフィギュレーションではなく、モジュールのフラッシュ メモリに保存されます。これによって、停電やディスク障害などの破局的な出来事が発生した場合に利用できる最低限の情報がシステムに保持されます。
- **Cisco Unity Express 設定** : システム設定を変更できるモードです。変更は実行コンフィギュレーションに保存されます。後で実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存すると、設定コマンドによる変更は、ソフトウェアの再起動時に再び有効になります。

Cisco Unity Express 設定モードには、複数のサブ設定レベルがあります。グローバル設定モードは、コマンド環境を EXEC から設定に変更します。このレベルでは、多数のソフトウェアパラメータを変更できます。しかし、特定の設定コマンドを使用すると、環境がより限定された設定モードに変更され、システムに対する変更を入力できるようになります。たとえば、**service timecardview** コマンドは、環境を **config** から **config-timecardview** に変更します。この時点で、アプリケーションのパラメータ値を入力したり変更したりできます。

利用できるコマンドは、そのときのモードによって異なります。CLI プロンプトで疑問符 (?) を入力すると、各コマンドモードで利用できるコマンドのリストが表示されます。このコマンドリファレンスの説明には、各コマンドの環境モードが示されています。

表 1 に、Cisco Unity Express ソフトウェアのさまざまな共通コマンドモードへのアクセス方式および終了方式を示します。また、各モードで表示されるプロンプトの例も示します。

表 1 コマンドモードのアクセス方式と終了方式

コマンドモード	アクセス方式	プロンプト	終了方式
Cisco Unity Express EXEC	Cisco Unity Express ソフトウェア プロンプトが表示されたら、 <b>enable</b> コマンドを入力します。	se-10-0-0-0#	<b>exit</b> コマンドを使用するか <b>CTRL+SHIFT+6</b> キーを押して、 <b>x</b> を入力します。
Cisco Unity Express 設定	EXEC モードで、 <b>configure terminal</b> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (config) #	設定モードから EXEC モードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
TimeCardView 設定	Cisco Unity Express 設定モードで、 <b>service timecardview</b> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (config-timecardview) #	Cisco Unity Express 設定モードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。
TimeCardView ユーザ設定	Cisco Unity Express 設定モードで、 <b>timecardview username</b> コマンドを使用します。	se-10-0-0-0 (config-tvuser) #	Cisco Unity Express 設定モードに戻るには、 <b>end</b> コマンドまたは <b>exit</b> コマンドを使用します。

## コマンド環境の開始

コマンド環境を開始するには、次の手順を使用します。

### 前提条件

コマンド環境の開始に必要な情報は次のとおりです。

- Cisco Unity Express モジュールが格納されているルータの IP アドレス
- ルータにログインするためのユーザ名およびパスワード
- モジュールのスロット番号

### 概略手順

1. telnet セッションを開きます。
2. telnet *ip-address*

3. ルータのユーザ ID およびパスワードを入力します。
4. **service-module service-engine slot/port session**
5. **enable**

## 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	telnet セッションを開きます。	DOS ウィンドウ、セキュア シェル、またはソフトウェア エミュレーション ツール (Reflection など) を使用します。
ステップ 2	<b>telnet ip-address</b>  例： C:¥> telnet 172.16.231.195	Cisco Unity Express モジュールを格納しているルータの IP アドレスを指定します。
ステップ 3	Username: Password:	ルータのユーザ ID およびパスワードを入力します。
ステップ 4	<b>service-module service-engine slot/port session</b>  例： Router# service-module service-engine 1/0 session	指定した <i>slot</i> と <i>port</i> に配置されているモジュールを使用して、Cisco Unity Express コマンド環境を開始します。プロンプトが「se」に変化し、Cisco Unity Express モジュールの IP アドレスが表示されます。  <b>注</b> メッセージ が表示された場合は、コマンド を入力し、このステップを再実行します。
ステップ 5	<b>enable</b>  例： se-10-0-0-0# enable	Cisco Unity Express EXEC モードを開始します。これで設定タスクを開始できます。

## ヘルプの使用方法

CLI プロンプトで疑問符 (?) を入力すると、各コマンド モードで利用できるコマンドのリストが表示されます。状況依存ヘルプ機能を使用して、コマンドに関連するキーワードと引数のリストを表示することもできます。

コマンド モード、コマンド、キーワード、または引数に固有のヘルプを参照するには、次の表 2 に記載されているコマンドのいずれかを使用します。

表 2 ヘルプコマンド

コマンド	目的
<b>help</b>	コマンド モードのヘルプ システムについて簡単な説明を示します。
<i>abbreviated-command-entry?</i>	特定の文字列で始まるコマンドのリストを示します。コマンドと疑問符の間にスペースを入力しないでください。
<i>abbreviated-command-entry</i> <TAB>	不完全なコマンド名を補完します。

表 2 ヘルプコマンド (続き)

コマンド	目的
?	特定のコマンドモードで利用できるすべてのコマンドのリストを示します。
<i>command</i> ?	コマンドラインで次に入力する必要があるキーワードまたは引数のリストを示します。コマンドと疑問符の間にスペースを入力します。

## コマンドの no 形式と default 形式の使用法

コマンドの **no** 形式が使用できる場合は、この形式を使用して機能を無効します。**no** キーワードを指定せずにコマンドを使用すると、無効にした機能を再び有効にしたり、デフォルトで無効な機能を有効にしたりできます。各コマンドのコマンドリファレンス項目では、設定コマンドの完全なシンタックスと、コマンドの **no** 形式の機能について説明します。

設定コマンドには、コマンドの設定をデフォルト値に戻す **default** 形式がある場合があります。機能がデフォルトで無効なコマンドで **default** 形式を使用すると、コマンドの **no** 形式を使用した結果と同じになります。ただし、機能がデフォルトで有効になっていて、変数が特定のデフォルト値に設定されているコマンドもあります。この場合にコマンドの **default** 形式を使用すると、機能が有効になり、変数がデフォルト値に設定されます。コマンドの機能が **no** 形式と異なる場合、コマンドリファレンス項目に **default** 形式の結果が説明されていることがあります。

## 設定変更の保存

Cisco Unity Express EXEC モードで、次のコマンドを使用して、フラッシュ メモリ内の実行コンフィギュレーションを別の場所にコピーします。

```
copy running-config {ftp:user-id:password@ftp-server-address[/directory]} |
startup-config | tftp:tftp-server-address} filename
```

キーワードまたは引数	説明
<b>ftp:user-id:password@</b>	FTP サーバのユーザ名およびパスワード。エントリにコロン (:) と アット マーク (@) を含めます。
<i>ftp-server-address</i>	FTP サーバの IP アドレス。
<i>ldirectory</i>	(オプション) コピーされたファイルが格納される FTP サーバ上のディレクトリ。使用する場合は、ディレクトリ名の前にスラッシュ (/) を入力します。
<b>startup-config</b>	フラッシュ メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーション。
<b>tftp:tftp-server-address</b>	TFTP サーバの IP アドレス。
<i>filename</i>	コピーされた実行コンフィギュレーションを格納するコピー先ファイルの名前。

実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーするときは、コマンドを 1 行で入力します。次の例で、実行コンフィギュレーションは **start** ファイルとしてスタートアップ コンフィギュレーションにコピーされます。この操作では、コマンドを 1 行で入力します。

```
se-10-0-0-0# copy running-config startup-config start
```

FTP サーバまたは TFTP サーバにコピーする場合は、このコマンドはインタラクティブになり、ユーザに情報の入力を求めます。パラメータは 1 行では入力できません。次の例は、このプロセスを示しています。次の例では、実行コンフィギュレーションが FTP サーバにコピーされます。FTP サーバはユーザ名とパスワードを要求します。FTP サーバの IP アドレスは 172.16.231.193 です。実行コンフィギュレーションは、configs ディレクトリに saved\_start ファイルとしてコピーされます。

```
se-10-0-0-0# copy running-config ftp:
Address or name of remote host? admin:voice@172.16.231.193/configs
Source filename? saved_start
```

## サポートされるプラットフォームの確認

Cisco IOS ソフトウェアは、特定のプラットフォームをサポートするソフトウェア イメージで構成されるフィーチャセットにパッケージ化されています。Cisco Unity Express ネットワーク モジュールをサポートするためには、特定のソフトウェア イメージが必要です。特定のプラットフォームで利用できるフィーチャセットは、リリースに含まれる Cisco IOS ソフトウェア イメージによって異なります。特定のリリースで利用できるソフトウェア イメージのセットを確認したり、機能が所定の Cisco IOS ソフトウェア イメージで利用できるかどうかを確認したりするには、URL <http://tools.cisco.com/ITDIT/CFN/jsp/index.jsp> の Cisco Feature Navigator を参照してください。

